

筑波研究学園都市交流協議会

# 筑協

つ く

きょう

Tsukuba  
Science City  
Network

# Tsukuba







## 筑波研究学園都市交流協議会 会長

(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）理事長）

久間 和生

### 会長挨拶

令和2年(2020年)7月1日より、筑波研究学園都市交流協議会(筑協)の会長に就任しました、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)理事長の久間です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、三菱電機の副社長を退任した後、2013年から5年間、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議において、新たな国家プロジェクトであるSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)、ImPACT(革新的研究開発推進プログラム)の創設と推進、および第5期科学技術基本計画策定において「Society 5.0」の概念の創出に携わりました。2018年からは、農研機構理事長として、農業・食品産業における科学技術イノベーションの創出に向けた研究開発を推進しています。

筑波研究学園都市は、建設開始から約50年を経過し、我が国最大の研究開発拠点として発展してきました。現在、29の国等の研究・教育機関、官・民合わせて100を超える研究機関において、外国人研究者5,000人強を含む約2万人の研究者が活動しています。筑協は、このような筑波の地において、平成16年(2004年)6月に、筑波研究学園都市研究機関等連絡協議会(筑研協)と筑波研究学園都市協議会(研学協)を統合し発足しました。筑協の目的は、「筑波研究学園都市の国際性を活かし、筑波研究学園都市の将来像をふまえ、会員相互が研究交流、共通問題等について相互に緊密に連携し、必要な意見交換を行うとともに、真に住み良い成熟した都市づくりを図ること」としており、筑波の地における連携の要の役割を果たしています。

さて、世界は今、大きな変換点に差し掛かっています。情報化とグローバル化が飛躍的に進み、これまで経験したことのないスピードで経済・社会構造が変化しています。また、世界人口の増加、地球温暖化、自然災害の多発など、様々な社会的課題が噴出している中、本年上半期には、新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、世界はポスト・コロナ、ウィズ・コロナ時代でのあるべき姿を模索しています。

このような状況にあって、我が国が世界の変革をリードしていくためには、第5期科学技術基本計画で掲げられた「Society 5.0」を世界に先駆けて実現し、ICTをフル活用して価値を創出し、経済成長と社会的課題の解決を両立することによって、人中心の社会の構築を目指すべきと考えています。そのためには連携が重要です。多くの研究機関が集まる筑波には、「組織や分野の枠を超えた連携」、「出口に向かって基礎から実用化まで繋ぐ連携」を行う地の利があり、「Society 5.0」実現を先導する大きなポテンシャルがあります。

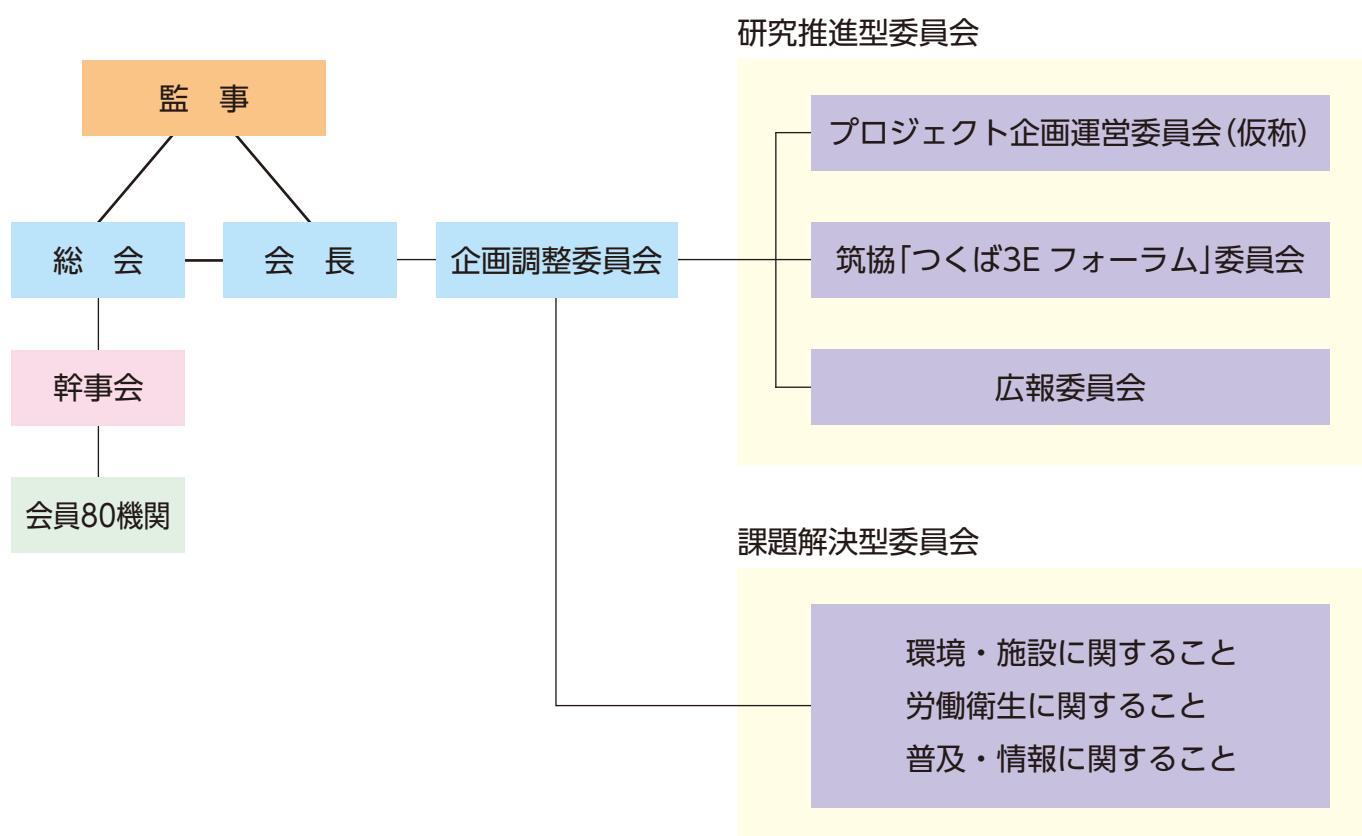
筑協会長として、本会が筑波の地を核とした「Society 5.0」実現の牽引役となるよう、会員の皆様とともに取り組んで参りたいと思います。その結果、筑波研究学園都市、我が国、ひいては世界の変革を牽引することが可能となるはずです。筑協の活動を強力に推進すべく、関係各位のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



## 目 的

筑波研究学園都市交流協議会は、筑波研究学園都市の国際性を活かし、筑波研究学園都市の将来像をふまえ、会員相互が研究交流、共通問題等について相互に緊密に連携し、必要な意見交換を行うとともに、真に住み良い成熟した都市づくりを図ることを目的としています。

## 組 織 体 制



筑波研究学園都市交流協議会

# Tsukuba Science City Network

## Kazuo Kyuma

President, Tsukuba Science City Network  
(President of National Agriculture and Food Research Organization)

### Message from the President

My name is Kazuo Kyuma, President of the National Agriculture and Food Research Organization (“NARO”), and starting from July 1, 2020, I am also delighted to become the President of Tsukuba Science City Network (“TSCN”).

After leaving my role as Executive Vice President of Mitsubishi Electric Corporation, I was involved in establishing and promoting SIP (Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program) and ImPACT (Impulsing Paradigm Change through Disruptive Technologies Program) at the Council for Science, Technology and Innovation, Cabinet Office, as well as creating the concept of “Society 5.0” in the formulation of the 5th Science and Technology Basic Plan for five years from 2013. Since 2018, I have been promoting research and development aiming at creating scientific and technological innovation in the agriculture and food industries as President of NARO.

Nearly 50 years have passed since the construction of Tsukuba Science City began, and in that time it has developed to become the largest research and development base in Japan. There are now about 20,000 researchers, including just over 5,000 foreign researchers, working at 29 national and other research and educational institutions, and at more than 100 institutions from the public and private sectors. TSCN was established through a merger of Tsukuba Science City Research Institute Liaison Council and Tsukuba Science City Council in June 2004. The aim of TSCN is to develop the City as a truly pleasant, mature place by making the most of its global nature. Based on the future vision of the City, the members of TSCN will closely cooperate in research and exchanges, working together on common challenges and other issues through discussions. In these ways, TSCN plays an important role in collaboration in Tsukuba.

The world is now at a major crossroad. Information technology and globalization are advancing rapidly, and economic and social structures are changing at a speed we have never experienced before. Also, amidst a variety of social issues such as the increasing global population, global warming, and frequent natural disasters, the first half of this year saw the emergence of the COVID-19 pandemic, and the world is now searching to define what it should be in the post-coronavirus era as well as in coexistence with coronavirus.

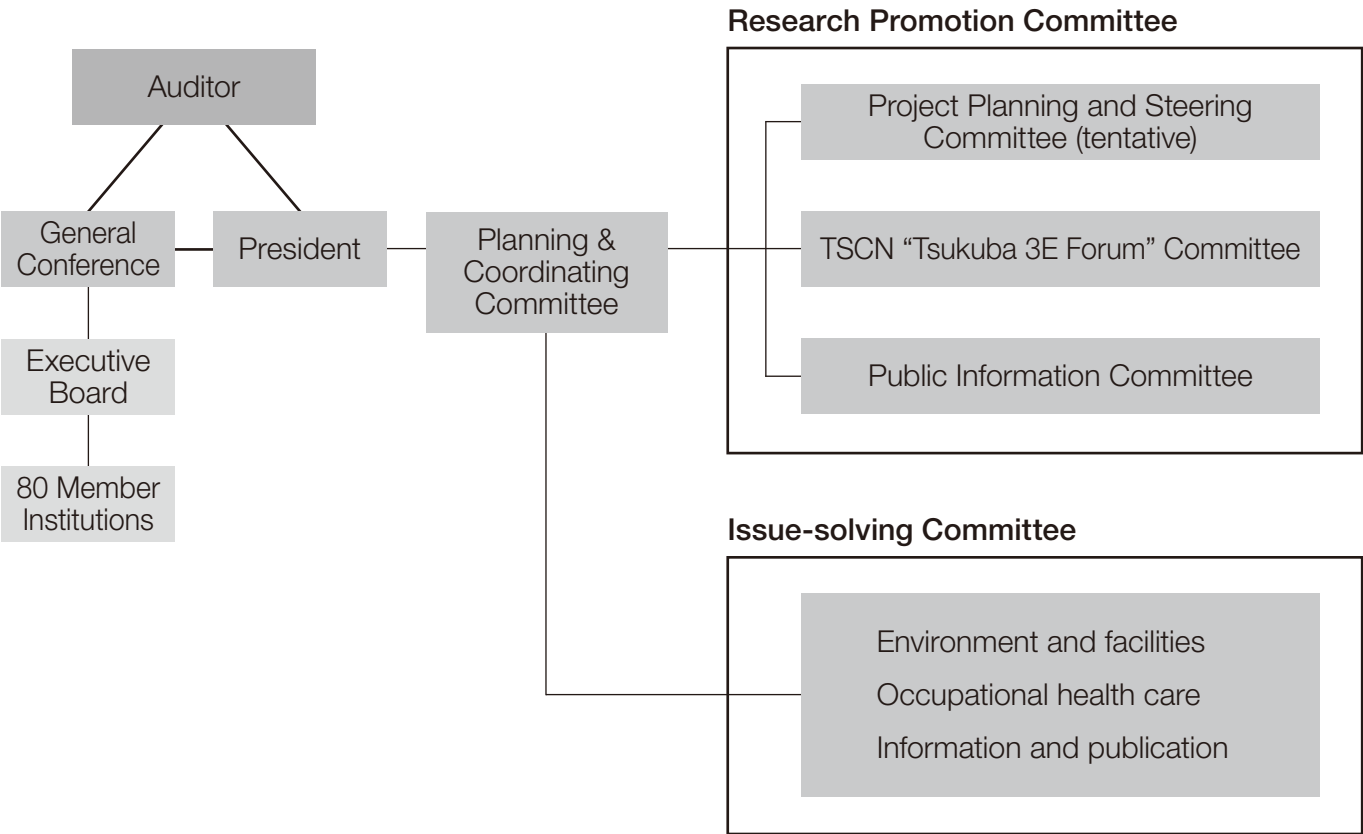
In order for our country to lead the changing world under such circumstances, I believe we should aim to build a human-centered society by achieving Society 5.0 in the 5th Science and Technology Basic Plan, creating value through full use of ICT, and balancing both economic growth and solutions for social issues. Collaboration is a hugely important factor in achieving these aims. With its concentration of research institutions, Tsukuba has a geographic advantage in terms of collaborating across organizational and disciplinary boundaries and collaborating to connect foundations to practical applications toward the exit, and there is great potential here to lead the realization of Society 5.0.

As President of TSCN, I would like to work together with the members to make this organization a driving force for realizing Society 5.0 with Tsukuba at its core. As a result, it should be possible for us to lead changes not only in Tsukuba Science City and Japan, but also worldwide. We would really appreciate further understanding and support from the relevant parties in order to strongly promote the activities of TSCN.

**Mission:** \_\_\_\_\_

The aim of TSCN is to develop the City as a truly pleasant, mature place by making the most of its global nature. Based on the future vision of the City, the members of TSCN will closely cooperate in research and exchanges, working together on common challenges and other issues through discussions.

**Organization:** \_\_\_\_\_



## 筑波研究学園都市交流協議会会員機関

- 1 茨城県
- 2 つくば市
- 3 つくばみらい市
- 4 独立行政法人国立公文書館つくば分館
- 5 独立行政法人国際協力機構筑波センター
- 6 文部科学省研究交流センター
- 7 独立行政法人国立科学博物館筑波地区
- 8 国立研究開発法人物質・材料研究機構
- 9 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- 10 独立行政法人教職員支援機構
- 11 国立研究開発法人科学技術振興機構
- 12 国立研究開発法人理化学研究所筑波事業所
- 13 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター
- 14 国立大学法人筑波大学
- 15 国立大学法人筑波技術大学
- 16 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構
- 17 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
- 18 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
- 19 農林水産研修所つくば館
- 20 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
- 21 国立研究開発法人国際農林水産業研究センター
- 22 国立研究開発法人森林研究・整備機構
- 23 国立研究開発法人産業技術総合研究所
- 24 国土交通省国土技術政策総合研究所
- 25 国土交通省国土地理院
- 26 気象庁気象測器検定試験センター
- 27 気象庁気象研究所
- 28 気象庁高層気象台
- 29 国立研究開発法人土木研究所
- 30 国立研究開発法人建築研究所
- 31 国立研究開発法人国立環境研究所
- 32 公益社団法人科学技術国際交流センター
- 33 一般社団法人つくば観光コンベンション協会
- 34 一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構
- 35 一般財団法人茨城県科学技術振興財団
- 36 一般財団法人研究学園都市コミュニティケープルサービス
- 37 公益財団法人国際科学振興財団
- 38 一般財団法人総合科学研究機構
- 39 公益財団法人つくば科学万博記念財団
- 40 一般財団法人つくば都市交通センター
- 41 公益財団法人つくば文化振興財団
- 42 一般財団法人つくば市国際交流協会
- 43 一般財団法人日本自動車研究所
- 44 公益財団法人日本農業研究所実験農場
- 45 一般財団法人ベターリビングつくば建築試験研究センター

- 46 一般財団法人リモート・センシング技術センターつくば事業所
- 47 つくば市商工会
- 48 全農 飼料畜産中央研究所
- 49 学校法人茗溪学園中学校高等学校
- 50 学校法人温習塾 つくば秀英高等学校
- 51 学校法人つくば総合学院
- 52 学校法人筑波研究学園
- 53 学校法人 TSUKUBA GLOBAL ACADEMY  
Tsukuba International School
- 54 アステラス製薬株式会社つくば研究センター
- 55 安藤ハザマ技術研究所
- 56 エーザイ株式会社筑波研究所
- 57 NTT アクセスサービスシステム研究所
- 58 応用地質株式会社
- 59 株式会社奥村組技術研究所
- 60 株式会社カスミ
- 61 協和発酵バイオ株式会社 R & I センター
- 62 株式会社熊谷組技術研究所
- 63 株式会社クラレつくば研究センター
- 64 J S R 株式会社筑波研究所
- 65 関彰商事株式会社
- 66 WDB 株式会社つくば支店
- 67 株式会社社長大総合研究所
- 68 東京ガス株式会社つくば支店
- 69 株式会社つくば研究支援センター
- 70 つくばコミュニティ放送株式会社
- 71 筑波都市整備株式会社
- 72 株式会社つくばマルチメディア
- 73 戸田建設株式会社筑波技術研究所
- 74 株式会社フジキン 万博記念 つくば先端事業所
- 75 ホソカワミクロン株式会社つくば事業所
- 76 保土谷化学工業株式会社筑波研究所
- 77 株式会社三井住友銀行つくば支店
- 78 リンナイ株式会社つくば営業所
- 79 株式会社筑波銀行 ビジネスソリューション部
- 80 株式会社スペースサービス

### 特別会員

- 1 国土交通省関東地方整備局営繕部保全指導・監督室

### 提携機関

- 1 NPO 法人 NEWS つくば

2020.07.01



筑波研究学園都市交流協議会

〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2 丁目 20-5  
TEL. 029-863-2007 FAX. 029-856-0545

<https://www.tsukuba-network.jp/>